

出会い生まれを考え

岳南中 三年 中島 佑季

私は、目の前の風景を見て啞然とした。ど
れだ村叫んでもすべてかき消されてしまっ
どの水が上から落ちる音。その様子に直
したのには、私を含めた四人家族が、この屋
島に引越してすぐのことだった。
自然の偉大さを知らず、私たち家族は、母
の提案で、台風後の大川の氾濫を見に行くこ
にした。今思えば、血の気が引くようなこと
だが、そのころの私たちは無知だった。台風
が過ぎ去り、予定していた通り大川の氾濫に行
た。そこで、衝撃は今でも忘れられない。家
員が、まるで魔法に下もかかっているかのよ
うに釘付けになった。私の身長をはるかに越
え、ほとんど大きな水しぶき。その空間を覆う白
い霧のようなもの。大量の水が落ちるの
目でも追えないは、さで、次々と溢れ出
る。そのすべての光景が、私にとり、新し
ものだった。また、感動する反面、屋久島の

自然の怖さを感じた。もし、今ここに落ちれば、間違いないで死ぬだろうと思う迫力だった。この自然にはかなめない、人間の本能が言った。夫気がした。

屋久島に引越してくす前に住んでいたら、ここでは、自然災害の怖さを知るところか、自然さえも感じる機会がなかった。海に行くには、車で二十分。木は生えていたが、いかにも見物用という感じだった。海は茶色に濁り、砂浜には人工物のゴミが落ちていた。自然界の魚や動物など、一度も見たことがなかった。だからこそ、私たちは、青く透き通る海と泳ぐ魚。根をずりしりと張った、様々な色形。大きな木の首が痛くなるくらい見上げた位置から落ちる滝。その近くで見た猿の群れや鹿の親子。すべてに感動し驚いた。日本にこんな場所があったら、と思うた。初めて屋久島に来る観光客は、私たちのように思う人が多しはずだ。屋久島の自然は世界有数の世界自然遺産にも登録されている。

私は、屋久島の魅力を知らずとて、自然の怖さ、恐ろしさも知らずとてほしりと感じた。今もなお地球温暖化が進行している。この問題は、人間一人の力だけでどうにかなる話ではない。この地球という惑星で生きている以上、すべての人間が心の地球温暖化を問題視しなければならぬと思う。地球という広し視点で見れば、みんな仲間なのに、なぜ陣地の取り合いなどで、戦争をやるのだろうか。もっと重要なことがあるはずだ。私がそう思えたのは、まぎれもなく、屋久島の自然に出会ってからだ。この自然を守らなければならぬ。失われてからでは遅いのだ。地球温暖化の影響で災害などが起きれば、困るのは人間だ。屋久島の自然を見て、心を守りたいと思っ、てくれる人が増えれば、問題が解決するわけではないが、前向きな方向に進む気がする。自然の魅力も怖さも、伝えていくのは、私たちの世代なのかもしれない。